

# 地場産業と連携し、地域資源を生かした事業を展開します。

(鳥取県米子市)

日下エンジニアリング株式会社 代表取締役 **佐々木 禎**



**プロフィール**  
1967年鳥取県生まれ。小型精密モーターの製造、風力発電学習キットや太陽電池関連製品、LED利用製品などの開発・製造の企業を経て、2010年4月に日下エンジニアリング株式会社を設立。鳥取大学工学部ものづくり教育実践センター産学官連携教育コーディネーターなども務める。

実は震災前の2月に、地元の製菓メーカーからLEDで光るディスプレイの製造を受注し、レーザー加工機を導入していました。そこで、この加工機を使って自社製品を生み出せないかと考え、「日産スカイライン」をかたどったLEDディスプレイを

土蔵群の赤瓦で地域おこしを進めているメンバーなどが加わり、私もLED等電気器具製造開発の技術力が買われて参加しました。そのグループで、水木先生のアニメをテーマに、地域素材を活用したオリジナル商品の開発を始めました。異業種のメンバーが毎月集まって検討した結果、智頭杉や因州和紙、鳥取の砂などを使った鬼太郎自動車木製キットや一反木綿灯籠、砂像ぬりかべプラントナーなどの商品が続々と誕生しています。

## Q どのような経緯でベンチャー企業を立ち上げたのでしょうか。

佐々木：1986年に松下電器のモーター製造を受注する会社に入社し、小型精密モーターの製造に携わって来ました。しかし、1990年代半ばから製造現場の海外移転が進み、モーター製造の仕事自体が激減しました。そこで自社製品の開発に乗り出し、風力発電や太陽光発電で光る高速道路用の視線誘導標や太陽電池やプロペラ型風力発電学習キットなどの開発・製品化を進めました。開発部門を強化したいという別の製造会社に移った後も、電子制御を中心としたコア技術を立ち上げてきました。さまざまな会社と連携していく中で、その技術を使って独立してみようかと勧められ、2010年4月に会社を設立しました。

## Q 取り組んでいる事業内容について教えてください。

佐々木：起業当初は、以前の仕事を引き継ぎ、視線誘導標や太陽光・LED関連製品の開発などを進めてきました。公共事業関連の業務が多かったのですが、東日本大震災の発生後、社会情勢の変化を察し、これまでとは異なる製品の開発・製造を模索しました。

所有者用のノベルティとして日産自動車に提案しました。その結果、県のサポートもあり、難しいとされる日産自動車とのライセンス契約を結ぶことができました。日産のライセンス取得によって会社の信用力は高まったといえます。現在はお客さまである企業と直接やりとりをしながら、ノベルティやマニア向け商品など要望に応える製品を提供しています。

また、地場の素材を活用した製品も製造しています。これは、地域とのつながりが「made in とっとり」というプロジェクトに発展したこと、生まれたものです。

## Q 「made in とっとり」とは、どのような取り組みでしょうか。

佐々木：公益財団法人鳥取県産業振興機構の農商工連携促進ファンド事業として始まった取り組みです。境港市の水木しげるロードに店舗を構える株式会社千年王国と、智頭町で製材業や木材加工業を営む株式会社サカモトなどが共同で提案したプロジェクトが採択され、そこに、砂を固める技術で有名な有限会社池原工業や包装業の有限会社サンパック、海外での経験を持つ工業デザイナー、三徳山三佛寺や倉吉市の白壁

## Q 産学官連携にも取り組んでいるようですが、どのような活動を進めていますか。

佐々木：会社設立時に鳥取大学から話があり、工学部ものづくり教育実践センターの産学官連携教育コーディネーターを務めています。2012年9月には鹿野温泉の温泉熱を生かした発電で足湯に照明をつけてほしいという鳥取市鹿野支所の依頼があり、学生とともに半年間で完成させました。プロジェクト自体は2013年3月で終了しましたが、これを地域おこしにつなげようという話に進展しています。そして、当社と同センター、市の産学官連携で温度差発電のプロジェクトに取り組むことになり、4月に鳥取市の鳥取県産業技術センター内に鳥取オフィスを新設しました。

これまでさまざまな企業と連携することで、商品開発の基礎やノウハウが培われてきました。今後も、機動性の良さを生かし、ワンストップの製品開発に取り組んでいきたいと思っています。

インタビュー・構成：  
城市奈那（株式会社ジェイクリエイト）